

2026 編入学試験_正解・解答例 (解答のポイント)

問 1

- (1) 自由貿易下では国内価格が世界価格で固定されることをふまえ、標準的な部分均衡分析の図解を行う。図 1 を参照。

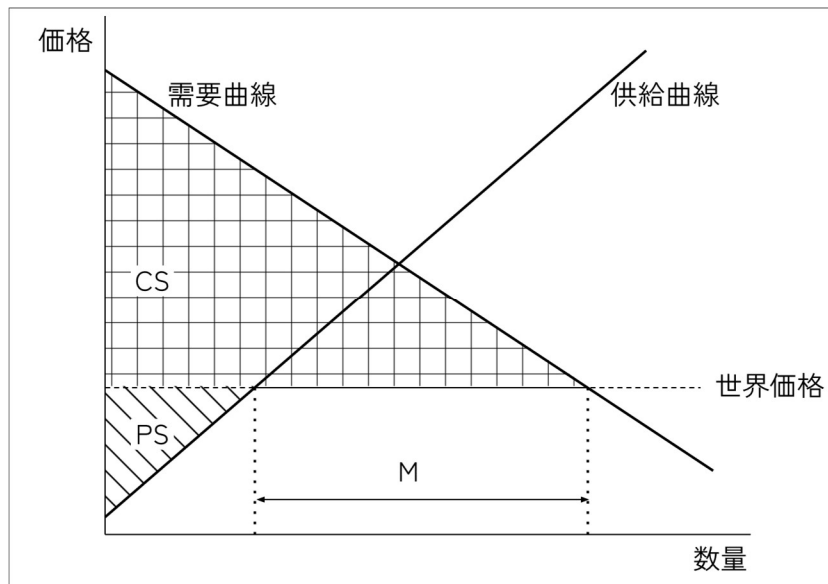


図 1：自由貿易下の均衡

- (2) 特定関税の導入で国内価格が世界価格+関税額に上昇することをふまえ、単位あたりの関税額、輸入量、輸入量の減少分を図から読み解き、解答を導く。図 2 を参照。

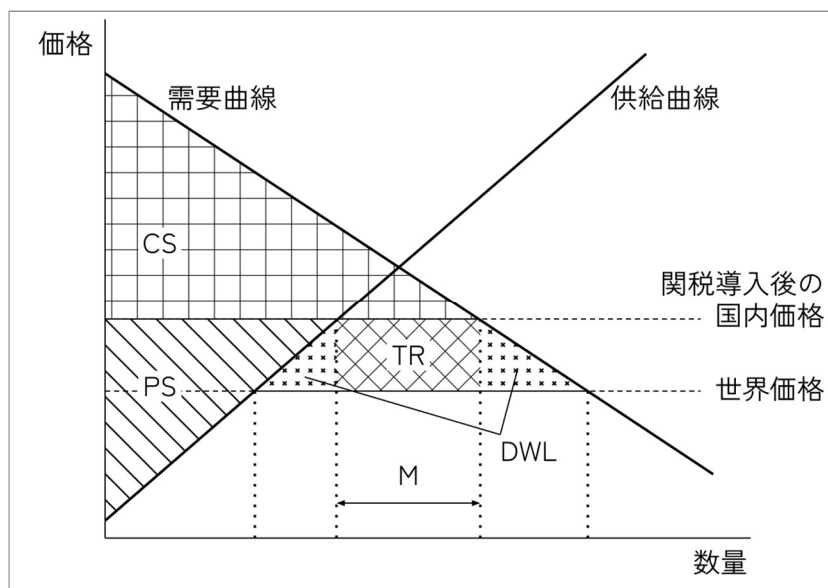


図 2：関税導入後の均衡

- (3) 関税導入により消費者余剰 (CS) は減少し、生産者余剰 (PS) は増加するが、総余剰 (TS) は関税収入を含めても減少することを示す。自由貿易が総余剰を最大化することから経済学的には合理的であることを論じる。
- (4) 政府の役割として、例えば再分配政策を挙げ、課税の歪みや情報の非対称性など再分配政策に非効率性が生じる状況を例示する。
- (5) 最終消費財について、国内価格の上昇という市場への直接的な効果を論じる。中間財について、国内の下流産業の生産コスト上昇に伴う生産性や競争力の低下など、より広範囲で複雑な負の波及効果が生じやすいことを論じる。
- (6) 生産要素のうち資本と労働に分けて議論する。資本については、例えば、工場建設や設備投資の必要性や海外に拠点を持つ既存企業による国内再投資や海外直接投資 (FDI) の重要性について論じる。労働については、例えば、企業が求めるスキルを持つ労働者を確保する必要性や職業訓練や専門教育の重要性について論じる。

問2

- (1) 自己資本利益率 (ROE) と総資産利益率 (ROA) について、ストックとしての自己資本と総資産の関係や、フローとしての売上高総利益、営業利益ならびに当期純利益の関係などを考慮して解答を導く。
- (2) ROE と ROA との相違について、レバレッジやスプレッドにおける他人資本による影響などを考慮して解答を導く。
- (3) 借入金などの他人資本の増加が総レバレッジに与える影響と、それによる ROE の変化などを考慮して解答を導く。
- (4) 収益性・効率性・安全性という3つの観点から ROE を分解し、企業の財務分析に有用な財務比率である、売上高当期純利益率・総資産回転率・総レバレッジなどを考慮して解答を導く。
- (5) 表に示される数値例を用いて、収益性・効率性・安全性という3つの観点から各企業の特徴をとらえるために必要な数種類の財務比率を計算し、それらを比較検討することにより解答を導く。